演習05解答例: DX導入·展開計画の策定(1/4)

解答例(あくまで一例です) ※一部、提供情報には含まれない仮説を踏まえて記載しています

【DX導入計画】(1/3)

1)プロジェクトの大方針

• PoCにて効果が確認された「2か月先のトラック台数予測」について、実務導入に向けて必要な事項を定義の上、定常業務に組み込む。

2)プロジェクトの概容

- 目的:"トラック台数予測"施策を実務に導入する上で必要な事項を定義する
- ゴール:定常業務の中で当該施策を実行し、運営状況モニタリングの上、施策結果を評価する
- スコープ:未来日に対する定期便契約トラック台数の変更(削減)
- 予定成果物:本施策実施結果、および今後の留意点等のとりまとめ
- 予定実施期間: 20XX年X月~X月の6か月間で評価する

3)投資計画 (効果、費用、ROI等) ※詳細は補助教材①:投資回収計画の策定 参照

- 期待効果(Return): 本プロジェクトにより以下の期待効果獲得を目指す
 - 定量的な期待効果
 - 定期契約台数の削減による、毎月の配送費用の削減
 - 担当者の見積もり工数の削減
 - 定性的な期待効果
 - 価値観・組織:「データに基づく意思決定」の浸透・定着
 - 人材:データを取り扱える人材の育成・輩出
 - データ:施策実行時のデータ収集

- 費用(Invest):必要最低限の人件費にてプロジェクトを遂行する
 - イニシャルコスト
 - シミュレーションシートのUpdate:計3人日程度
 - 従業員への説明に係る工数:計1.5人日程度
 - ランニングコスト
 - 毎月の台数予測作業:月当たり1H程度



発生費用は人件費のみであることから、契約台数変更によるコスト削減分を純粋な効果(Return)として換算する

演習05解答例: DX導入·展開計画の策定(2/4)

解答例(あくまで一例です) ※一部、提供情報には含まれない仮説を踏まえて記載しています

【DX導入計画】(2/3)

4)組織計画

- 本プロジェクトの最終意思決定(定期便契約台数の合意)は、松本副社長の最終承認をもって決定することが望ましい
 - 最終意思決定者(定期便契約台数の合意):副社長)松本
 - プロジェクト責任者(方針決定・品質管理責任):配送業務担当)近藤
 - プロジェクト実行者(シミュレーションシートの実行など): 社員)前田

5)進捗計画

- 毎月月初に、前月のトラック定期便/非定期便実績および前年同月対比を取りまとめの上、松本副社長に報告する
- 本施策3か月経過後、quarter単位での前年比較を行い、トラック定期便契約台数の妥当性を協議する

6)品質計画・リスクマネジメント

• 毎月月初の取りまとめの結果、前年同月に比べて大幅な非定期便台数の利用が確認できた場合、従来の方法に戻し原因を究明する

7)システム構成

• トラック定期便台数決定の検証に留めるため、PoC作成のシミュレーションシート(Excel)を継続利用することととし、システム開発・実装は行わない

8)データ管理・活用

- 直近記録を始めた「トラック使用台数データ(定期便/非定期便の使用実績)」は今後も継続的に取得・蓄積を行う
- 今後の展開(外部倉庫からの客先輸送等)を見据え、データ・シミュレーション結果ファイル等は月ごとにフォルダを作成しバックアップを取っておく

演習05解答例: DX導入·展開計画の策定(3/4)

解答例(あくまで一例です) ※一部、提供情報には含まれない仮説を踏まえて記載しています

【DX導入計画】(3/3)

- 9)業務プロセスの変更 ※詳細は別紙②参照
- 毎月月末に、翌々月以降の定期便トラック台数を検討・決定するためのシミュレーション作業を追加する
- 配送業務担当)シミュレーションの結果を松本副社長に報告し、松本副社長の承認をもって、翌々月以降に契約するトラック定期便台数を決定する
- 毎月月初に前月実績を集計し、前年同月実績と比較する。比較・考察結果を、松本副社長に報告する

10)具体的な検証方法

- 定量効果の算出
 - [月当たりの、定期便費用計] = [定期便単価] × [契約台数]
 - [月当たりの、非定期便費用計] = [非定期便単価] × [利用回数]
 - [月当たりの、総配送費用] = [月当たりの、定期便費用計] + [月当たりの、非定期便費用計]
 - [輸送費割合の、前年同月比較] = ([当年 総配送費用]÷[当年 売上]) ÷ ([前年 総配送費用]÷[前年 売上]) × 100
- 定期便契約台数の妥当性検証
 - a.直近需要量(2か月前内示数量)の確認
 - b.翌々月以降の定期便契約台数の試算(シミュレーションシート確認)
 - c.トラック使用台数データ(定期便/非定期便の使用実績)の確認
 - a,b,cを考慮した場合の、トラック予測台数の妥当性検証 ※パンデミックによる売上減少の影響も考慮

11)本プロジェクト以降の展開計画に向けて検討すべきこと(参考)

- トラック使用台数データ(定期便/非定期便の使用実績)の、より効果的なデータ収集・蓄積方法の検討(例:データベース化など)
- トラック台数予測の際に用いる「倍率」の妥当性の継続検証・見直し

演習05解答例: DX導入·展開計画の策定(4/4)

解答例(あくまで一例です) ※一部、提供情報には含まれない仮説を踏まえて記載しています

【DX展開計画】 ※詳細は別紙③参照

<u>1)大方針</u>

方針①:打ち手の進化・横展開

- -1)精度向上:トラック使用台数データ(定期便/非定期便の使用実績)を蓄積し、より効果的なトラック台数予測の方法を模索する

- -2)システム化:1年程度の運用期間を経て効果が確認できた場合に、データ収集・蓄積・台数予測・配送業者への依頼の一連の

業務プロセスを自動化する方法を検討する(※ただし、ROIを検証し、中長期的に投資回収が見込まれる場合のみ)

方針②:その他DX施策の実施

- -1)社内データの一元管理: 現在、Excel等で手作業にて記録・管理している種々のデータを、データ基盤に一元管理する

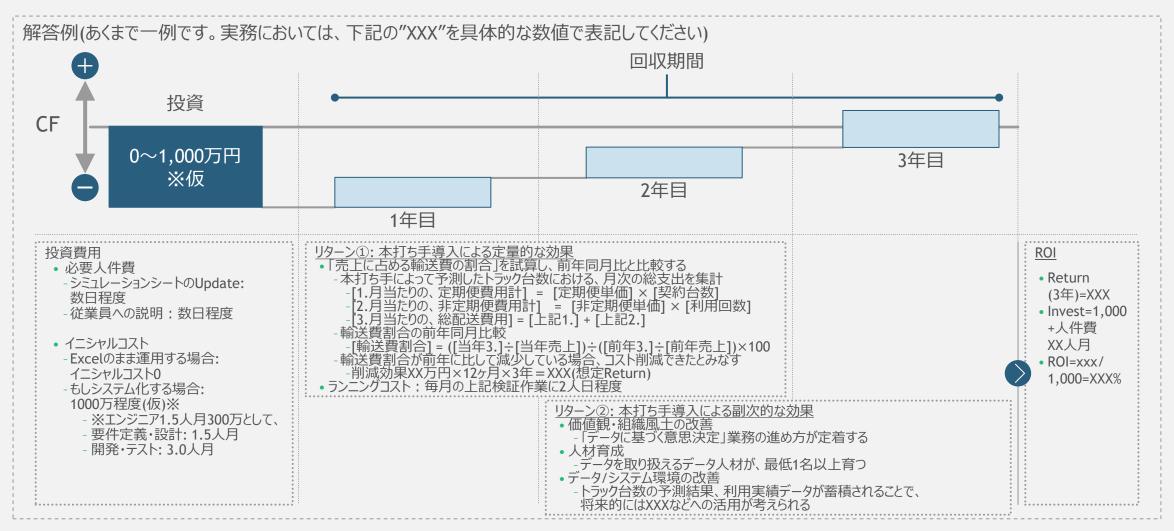
- -2)その他DX施策の検討: すでに顕在化しているその他業務課題の解決策を模索する

データ基盤を整えている間、各部から業務改善アイディアを募り、具体化に向けて検証を行う

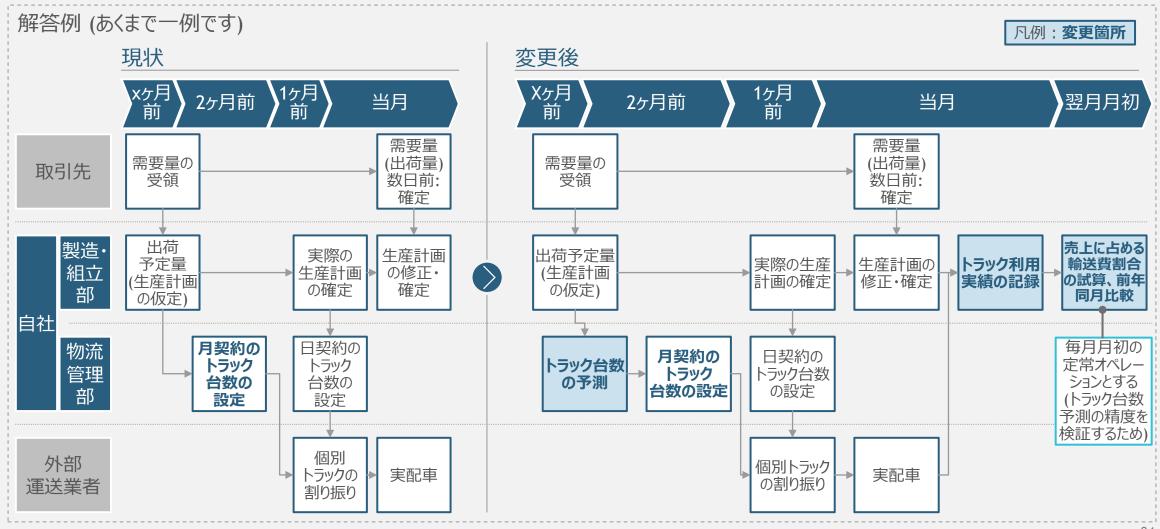
補足)上記方針の意図

- ●-1)現状のトラック台数予測ロジックは、限られたデータを用いたルールベースでの試算に留まっており、改善の余地が多分に残っているため
- ●-2)今後数年の継続運用が見込まれる場合、SaaS等のシステムを導入したほうが中長期的にメリットがある(ROIがペイする)と判断できた場合に、システム化に舵を切るべきであるため
- ②-1)より良い事業運営のためには、各店舗に点在したデータを一元管理し、データ分析による仮説/検証/実行を今後も継続すべきであるため
- **②-2**)中長期的な視点で「会社のあるべき姿」を従業員皆で検討することで、データを活用した打ち手の検討プロセスに慣れてもらいつつ、帰属意識を 高めていくため

演習05解答例: 別紙①投資計画の策定



演習05解答例: 別紙②業務フローの変更



推進

プレゼン

推進

演習05解答例:別紙③DX導入・展開ロードマップの策定

